

第4回水稻病虫害発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所
JA 兵庫西佐用営農生活センター
光都農業改良普及センター
令和5年8月22日

1 気象状況

7月下旬から8月中旬までの気温は平年より高くなりました。気象庁による今後1ヶ月間の予報でも平年より高くなると予想されています。7月下旬の降水量は非常に少ない状態でしたが、8月に入ると台風6号および7号の影響により雨風が強まり、降水量が多くなる日がありました。今後も前線や湿った空気の影響を受け、雨の日が増える可能性があります。

2 調査結果（調査日 8月22日）

病虫害名	調査結果の概要
いもち病	全調査圃場で確認されました。
紋枯病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	全調査圃場で確認されました。
ツマグロヨコバイ	一部の圃場で発生がありました。
カメムシ類	一部の圃場で発生がありました。

(1)カメムシ類

今回調査を行った一部の圃場で、特にイネを好んで加害するカメムシ類の発生が確認されました。他の水田圃場でも極早生品種の出穂した圃場を中心にカメムシ類の発生が見られています。今後1ヶ月の予報によると気温が平年より高くなるため、斑点米カメムシ類の増殖に好適な条件となります。周辺より出穂期が早い、あるいは遅い圃場では集中して被害を受けやすいため、出穂時の防除、多発田では臨機防除が必要です。

(2)いもち病

今後1ヶ月は、降水量は多くなる予報となっているため、いもち病が発病しやすくなります。病斑が見られる圃場、常発田、谷間や山陰など日陰になりやすい圃場では、特に注意が必要です。

8月下旬以降に出穂期となるヒノヒカリ等の品種では、出穂時の穂への感染を防ぐため出穂前の基幹防除が重要です。また、上位葉に病斑が多く見られる場合は、穂揃期に穂いもちの追加防除が必要です。

3 これからの管理について

気象庁の1ヶ月予報では気温は平年より高くなる見込みです。極早生品種では刈り取り適期を逃さないように籾の黄熟程度をよく見てください。また、今後降水量が増える見込みですが、収穫作業を見越しての極端な早期落水は粒張りの悪さや登熟不良による品質低下を招きますので注意してください。